

セスジキノボリカンガルー同居経過報告

坂上舞

よこはま動物園ズーラシアではセスジキノボリカンガルーのオスとメスを単独生活の動物のため1頭ずつ個々に飼育しており、メスの発情にあわせてオスとの同居を行っている。最初の同居は2017年5月に行った。同居の方法は朝の展示場放飼前に寝室とサブ運動場をすべて開放にして同居を行い、交尾が確認できたらどちらか一方を展示するようにした。

メスの発情は約55日周期で起こり、発情の判断はメスでは外見や行動の変化はほぼ見られない。代わりにオスがメスの匂いに反応し、行動の変化がみられるため通常は実際に同居を行わなくともメスの発情の判断が可能である。しかし当園のオスは、メスの発情時の反応行動は見られるが、発情にあわせた行動の頻度や強さに変化が顕著にみられないため、実際に同居を行いメスがオスを受け入れるかどうかで判断をしている。

またオスはメスにマウントを行うが2017年5月の時点では体格差がありオスよりもメスのほうが体が大きくうまくペニスの挿入ができない状態であった。それに伴いオスは時間が経つにつれて苛立ちがみられメスの尾を噛んだり、長時間のマウントによってオスがメスの腹部を傷つけてしまうことが問題として起こった。なかなか交尾が成功しない中、2018年5月にドイツで行われたtree-kangaroo workshopに参加し同居に関する様々なアドバイスをもらった。アドバイスを参考に同居の時間を長くしたり、交尾しやすい環境を整えたりした結果徐々にオスの交尾行動が上達し、体格もオスの方が大きくなり2018年11月の同居では初めて交尾、射精を確認した。